

「藻岩山山麓におけるクマ被害防止ガイド」

～ 札幌慈啓会旭ヶ丘拠点 安全・安心のための手引き～



令和7年10月発行

作成：法人本部



社会福祉法人

さっぽろ慈啓会

1章 なぜクマ対策が必要か

▶札幌市内のクマ出没・目撃情報（2025年）



★地理的要点として、慈啓会旭ヶ丘拠点は藻岩山の登山道入口（自然歩道）に非常に近接しており、敷地南西側が森林縁（クマの出没リスクエリア）に面していることが明確に分かります。

▶クマの生態

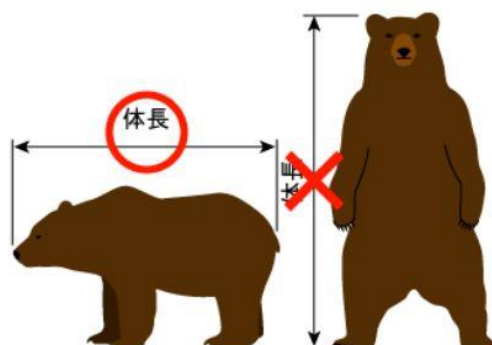
大きさ

【体長】

- ・オス：約2.0m
- ・メス：約1.5m

【体重】

- ・オス：約150～400kg
- ・メス：約100～200kg



ヒグマの一生

- **誕生**

ヒグマは、冬眠中（1月下旬～2月上旬）に穴の中で出産します。

生まれたばかりの子グマは、とても小さく体重が400gほどしかありませんが、春に母グマと一緒に冬眠穴から出てくる頃には4～5kgまで育ちます。

- **成長**

ヒグマの子育てはメスのみが行い、オスは子育てには一切参加しません。子グマは親離れ（独り立ち）する1歳半～2歳半までの間に、生きる術を母グマから学びます。

- **親離れ（独り立ち）**

成長した子グマは、1歳半または2歳半の夏頃に、母グマから離れて独り立ちします。

メスは母グマの近くで生活しますが、オスは近親交配などを避けるため、母グマから遠く離れた場所へと移動していきます。独り立ちしたばかりの若いオスは、この時期に市街地付近に迷い出てしまうことがあります。



- **繁殖**

ヒグマは、3～5歳頃に性成熟を向かえ、繁殖が可能になります。

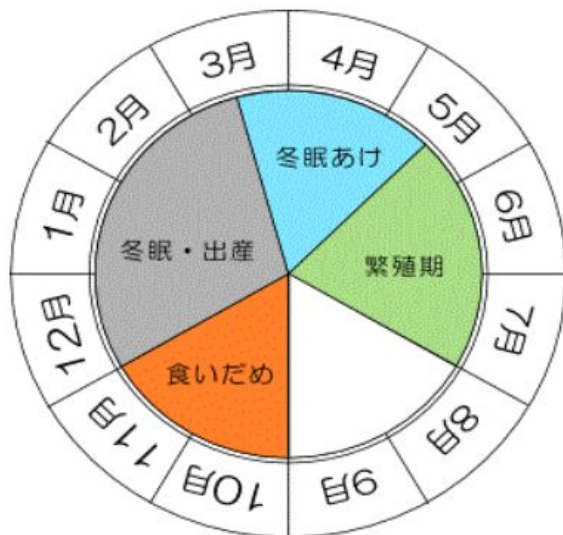
5～7月の繁殖期、オスは行動範囲を広げて山林を動き回り、複数のメスと交尾します。子グマを連れたメスは繁殖に参加しないので、メスと交尾するために、オスが子グマを殺してしまうことがあります。そのため、この時期の子連れのメスは、オスの動き回る山林を避けて市街地付近に出没することがあります。



- **寿命**

ヒグマの寿命は20～30年程度と言われています。野生の個体は、動物園等で飼育されている個体と比べて寿命が短いと考えられますが、はっきりとしたことは分かっていません。野生の捕獲個体での最長寿記録は34歳です。

ヒグマの一年



- **3～5月：冬眠あけ**

冬眠から目を覚ましたヒグマが穴から出てきます。オス、子のいないメス、子グマを産んだメスの順番で出てくると言われています。

- **5～7月：繁殖期**

オスはメスを求めて広い範囲を動き回ります。この時期は、オスを避けた子連れメスや、独り立ちしたばかりの若いオスが、市街地付近に出没しやすくなります。

- **8～9月：端境期（はざかいき）**

利用できる食べ物が少なく、ヒグマによる農作物の被害が出やすくなる時期です。

- **10～11月：食いだめ**

冬眠に向けて、食べ物をたくさん食べます。

- **12～3月：冬眠・出産**

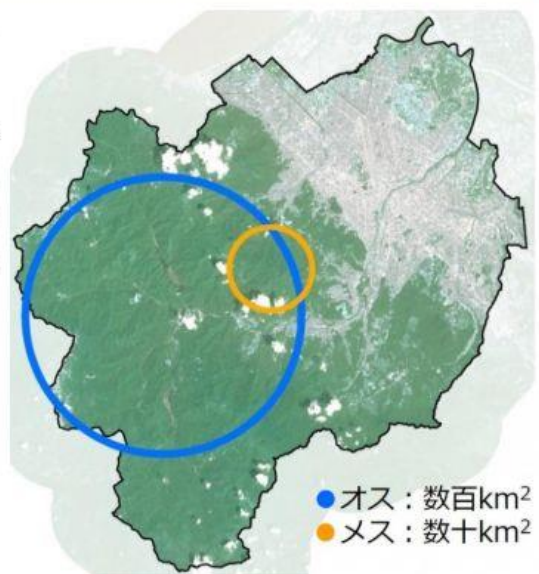
ヒグマは、冬になって食べ物がなくなると冬眠します。妊娠したメスは、冬眠中に出産し、春に穴から出るまでの間、おっぱいだけで子グマを育てます。

行動圏（行動範囲）

ヒグマは、個体ごとにそれぞれの行動圏（行動範囲）が決まっています。

行動圏の広さは、オスが数百km²、メスが数十km²と、オスの方がメスよりも広いことが分かっています。オスは、繁殖のためにメスを探して歩き回るため、行動圏が広がります。行動圏の広さは、地域や餌資源の量によっても変わり、餌資源が多い地域では、行動圏は狭くなります。

また、ヒグマには、「なわばり（他の個体の侵入を許さない範囲）」はなく、行動圏も他の個体と重複しています。



食べ物



ヒグマは雑食性の動物で、春から秋にかけて、その時に最も手に入りやすい食べ物を大量に食べます。

・春

ザゼンソウ、ミズバショウ、イラクサ、フキやセリ科（エゾニュウ、アマニュウなど）などの植物を食べます。ドングリが豊作だった年の翌年の春には、残ったドングリを食べます。
また、冬を越せずに死んでしまったエゾシカを食べることもあります。

・夏

少しずつ草が固くなっていく季節です。春に引き続き、フキやセリ科植物も食べますが、アリなどの虫や、ヤマグワなどの果実を食べることが増えてきます。
山の中の食べ物が少なくなり、果樹園のさくらんぼや、家庭菜園のとうもろこしなどの農作物の被害が起こりやすくなる時期です。被害を未然に防ぐためには、電気柵を設置するなどの対策が重要です。
(関連リンク：[果樹や作物の管理について](#))

・秋

クルミやドングリなどの堅果類、サルナシやヤマブドウなどの漿果類といった木の実を中心に、食べ物をたくさん食べます。
北海道では、例年、ヒグマの秋の主要な食べ物であるドングリ、サルナシ、ヤマブドウの実なりを調査し、公表しています（関連リンク：[「ヒグマに関する資料集」北海道](#)）。



・なぜ市街地近くまで来るのか（餌・匂い・林縁の藪など）

クマが市街地に来る主な理由は、食料不足、生息地の減少、人の生活圏と重なることなどが挙げられます。特に、秋に山中の餌が不作だと、クマは食物を求めて低地へ降りてきます。一度、市街地で食べ物を覚えたクマは学習能力が高く、再び出没する可能性があります。

主な原因は・・・？

食料不足:餌となるドングリや果実などの不作が続くと、クマは広い範囲で餌を探すようになります。

生息地の減少:人口減少や都市化、耕作放棄地が増えたことで、クマの生息地が狭まり、人間の住むエリアとの境界線が曖昧になっています。

学習による都市への依存:人や車を恐れず、一度市街地で食べ物を見つけると、その場所を学習して繰り返し出没することがあります。

2 章 敷地・設備管理のポイント

▶クマ出没を防ぐ環境づくり・対策事項

目的：クマが施設敷地・その周辺に寄り付きにくくし、被害発生の確率を下げる。

・敷地の周辺フェンスや柵の点検・強化

山林や藪が接している敷地境界では、クマが通り道として使いやすいため、明確な境界（フェンス・柵）を設けることが有効です。札幌市の「基本計画」では「電気柵を設置する」という方針も掲げています。

・草刈り・下草管理・果樹などの放置樹木の伐採

草深い藪や果実などをクマが「餌場」や「隠れ場所」として使うことがあります。草刈りをこまめに行い、放置された果樹や実を付けた木の撤去・伐採が推奨されています。

・ゴミ・残飯・ペットフード等の匂い管理徹底

クマは匂いのあるもの（生ゴミ・漬物・魚介・ペットフード・コンポスト等）を誘引物として人里周辺に出てくるケースがあります。行政指針でも「ヒグマを引き寄せない・餌付かせない」ことを重視しています。ゴミ庫扉が確実に閉まっているか確認。頑丈なゴミ庫の使用など注意。

・敷地内樹林・遊歩道・通路の安全確認

敷地が山側斜面や林の縁にある場合、歩道・通路・木陰など、クマの接近・隠れやすい場所を把握しておき、必要であれば立入制限・見通し改善を検討します。

・定期的な点検・報告ルート of 明確化

目撃・痕跡（足跡・糞・ひっかき痕）を見つけたら即時に記録・報告できる体制（職員連絡網・地域自治体・警察）を整えておきましょう。（6章参照）

▶▶敷地管理の工夫

- ・ 夜間・早朝は敷地利用を制限したり、山側エリアの外灯・センサーライトの設置を検討すると安全性が高まります。
- ・ 施設外来・通所利用者の動線が山林・林縁に近い場合、通路沿いに「クマ注意」の表示を設けるとともに、安全を確保できる誘導路を整備しましょう。
- ・ 地域の高マ出没情報を定期チェック（例：札幌市「ヒグマ情報」ページ）して、近隣での発生があれば即時対策を検討してください。

3章 入所者・通所者・職員対応（施設内・利用時）

目的：クマとの遭遇リスクを下げるとともに、万が一の出会い時に被害を軽くする。

- ・ 外出・散歩ルート設定時の配慮
敷地外の散歩コースが藻岩山斜面・林に近い場合、早朝・夕暮れ・夜間の散歩を避ける。
- ・ 職員と利用者がグループで出かけるようにして、単独や少人数での林縁歩行を避ける。
- ・ 音を出しながら移動・利用者への配慮
クマが人の存在に気付きやすくするため、散歩時に鈴やホイッスルを携行したり、会話しながら歩くことが推奨されています。
- ・ 利用者・職員への教育・緊急時行動訓練
「クマに遭遇したらどう動くか」の事前教育（動線を離れる、走らない、冷静に後退など）を実施。例えば、施設の山側を歩いている際、クマを見たら「ゆっくり後退・無理をしない」など。
- ・ 通所・訪訪問・施設管理等職員の山側業務時の注意

施設敷地外、山林との接点での作業・点検時には二人以上で動く・早朝・夜間を避ける・携帯連絡体制を確保する。

・クマ目撃時・痕跡発見時の対応手順の明確化

例えば、敷地内で足跡やひっかき痕・フン等を発見したら、すぐに管理責任者へ報告、通報 先と手順を決めておく。（6章参照）

〔利用者安全配慮のヒント〕

- ・ 高齢者施設として、利用者が屋外動線（山側、林縁）を歩く場合には、職員付き添いを標準化し、足元の安全だけでなく“クマ遭遇リスク”も視野に入れましょう。
- ・ 敷地内で樹林近くの休憩ベンチやガーデンを設置する際には、すぐに逃げ込めるよう視界が利く開けた場所を選定し、林縁ではなく敷地内中心側に設けるとより安心です。
- ・

目的：クマとの遭遇リスクを下げるとともに、万が一の出会い時に被害を軽くする。

主な取組

- ・ 外出・散歩ルート設定時の配慮
 - 敷地外の散歩コースが藻岩山斜面・自然林に近い場合、早朝・夕暮れ・夜間の散策を避ける。
 - 職員と利用者がグループで出かけるようにして、単独や少人数での林縁歩行を避ける。
- ・ 音を出しながら移動・利用者への配慮
 - クマが人の存在に気付きやすくするため、散歩時に鈴やホイッスルを携行したり、会話しながら歩くことが推奨されています。
- ・ 利用者・職員への教育・緊急時行動訓練
 - 「クマに遭遇したらどう動くか」の事前教育（動線を離れる、走らない、冷静に後退など）を実施。例えば、施設の山側を歩いている際、クマを見たら「ゆっくり後退・無理をしない」など。
- ・ 通所・訪問職員の山側業務時の注意
 - 施設敷地外、山林との接点での作業・点検時には二人以上で動く・早朝・夜間を避ける・携帯連絡体制を確保する。
- ・ クマ目撃時・痕跡発見時の対応手順の明確化
 - 例えば、敷地内で足跡やひっかき痕を発見したら、すぐに管理責任者へ報告、通報先を決めておく。（6章参照）

利用者安全配慮のヒント

- 高齢者施設として、利用者が屋外動線（山側、林縁）を歩く場合には、職員付き添いを標準化し、足元の安全だけでなく“クマ遭遇リスク”も視野に入れましょう。
- 敷地内で樹林近くの休憩ベンチやガーデンを設置する際には、すぐに逃げ込めるよう視界が利く開けた場所を選定し、林縁ではなく敷地内中心側に設けるとより安心です。

4章 地域・関係機関との連携・広報・情報共有

目的：敷地単独ではカバーしきれない“山林・地域自然圏”と人里の境界で起きうるクマの出没を、自治体・地域住民・施設が連動して把握・対策する。

主な取組

- 施設所在地の自治体（例えば札幌市・区役所）及び地域防災・野生動物対策部門と定期連絡
 - 例えば、札幌市では「ヒグマ基本計画」を策定し、出没時対応：電気柵設置・草刈り・ごみ管理などを明記しています。
 - 出没情報、通報フロー、掲示看板の設置などを自治体から案内を受けておくと、施設でも迅速対応できます。
- 地域住民および近隣施設（住宅・学校・公園）との情報共有
 - 施設近傍の住宅地・山林利用者との「クマ出没情報・休園情報・散策制限」などを共有しておくことで、利用者・職員にも“今、出没警戒エリア”を周知できます。
- 看板・貼り紙・館内案内による注意喚起
 - 敷地入口や山側動線に「クマ出没注意」の掲示を設け、利用者・通所者・職員に“山側・林縁近くの歩行時注意”を促します。
- 出没時の迅速な通報・対応プロトコル整備（6章参照）
 - 出没発生→警察への通報・自治体への通報→施設内アラート（職員・通所者・入所者）→本部連絡→敷地・出入口・動線の即時確認・必要なら利用・活動の中止や動線変更など。

【注意すべき危険ポイントの共有】

- 安全ゾーン：施設中央・北側（病院・駐車場・道路側）
- 警戒ゾーン：敷地西側の林縁エリア（散策・草刈注意）
- 立入制限ゾーン：藻岩山自然歩道入口周辺（出没リスク高）
- ☎ 通報拠点（管理棟・事務室・当直室）

※警戒ゾーンでの業務・作業にあたる場合は特に注意すること。

（電話を必ず所持する・複数名で作業するなどの対策を講じる）

【旭ヶ丘地区危険ゾーンマップ】



5章 もしクマに出会ってしまったら・・・（遭遇時行動）

▶実際の遭遇時には以下のような対応が推奨されています

- ・ 静かに後ずさりする
- ・ クマに背中を見せず、目を離さずにゆっくりと後退します。
- ・ 物陰（木や岩）を挟むようにすると、クマが攻撃してくるのを防ぐことがあります。
- ・ クマ撃退スプレーを持っている場合は、風向きに注意して使いましょう。

×決してやってはいけないこと

- ・ 走って逃げること：クマは逃げるものを追いかける習性があるため、襲われる危険性が高まります。
- ・ 大声を出すこと：クマを刺激し、興奮させてしまう可能性があります。
- ・ 物を投げること：これもクマを刺激する行為です。
- ・ 子グマに近づくこと：近くに母グマがいるため非常に危険です。

野生生物に 襲われないために

クマ編



もし出合ったら

※環境省パンフレットより

遠くにいる

大声を出したり走ったりせず
落ち着いてその場を離れて

出くわした

クマが立ち去ってから
その場を離れて。
急な動作はしない

襲われたら

両腕で顔や頭をガードして
大けがを避けて

近くにいる

クマを見ながら、
背を向けずにゆっくりと
落ち着いて後退



6 章 通報手順・通報先リスト

➡札幌市でヒグマ(クマ)が出没した場合、最寄りの警察(110番)へすぐに連絡してください。目撃や痕跡(フン、足跡など)発見時は、危険を避けるため、近づかずにその場を離れ、速やかに通報しましょう。

➡追加の相談や情報提供が必要な場合は、以下の札幌市関連の連絡先をご利用ください。

札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課(主な問い合わせ先)

・電話番号: 011-211-2879

・住所: 〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎 12階

➡各区役所連絡先(出没した区の役所へ) 中央区:011-231-2400

➡法人本部担当 蝦名部長:080-4135-0959

【基本対応フロー】

※「痕跡」の発見(足跡やフン、毛など)の場合は、まず蝦名までご連絡下さい

